

識別できる？ モモノゴマダラノメイガ、マツノゴマダラノメイガ

今回取り上げる虫は、モモノゴマダラノメイガ *Conogethes punctiferalis* とマツノゴマダラノメイガ *Conogethes pinicolalis* です。両種の外部形態はともによく似ていますが生物学的には別種です。実験室では交雑がほとんど起こりませんし、まれに交尾してもその子供はオスに偏り*1、子孫を残せないのです。

性フェロモン誘引剤はモモノゴマダラノメイガ用のみ市販されていて、SE トラップと組合わせて発生予察に利用されています*2。このフェロモントラップに近縁種マツノゴマダラノメイガが捕獲されることがわかっています。

下表は 2003 年 6 府県で実施したフェロモントラップ調査の結果です。モモノゴマダラノメイガ用誘引剤なので当然モモノゴマダラノメイガが捕れています。A 県～D 県に仕掛けたトラップにはマツノゴマダラノメイガも捕獲されています。特に C 県クリ園場の 26 頭はちょっとびっくりする数字です。

フェロモントラップ(モモノゴマダラノメイガ誘引剤)に誘殺されたモモノゴマダラノメイガ、および、マツノゴマダラノメイガの数

虫名	誘殺数/トラップ/シーズン					
	A県 モモ	B県 モモ	C県 クリ	D県 モモ	E府 モモ	F県 クリ
モモノゴマダラノメイガ	57	127	34	150	28	48
マツノゴマダラノメイガ	1	3	26	1	0	0

2003年実施 (望月, 未公表)

マツノゴマダラノメイガの幼虫は主にマツ科のゴヨウマツの葉を食べ、モモやクリを加害しません。従って、誘殺されたマツノゴマダラノメイガはフェロモントラップを設置した園場の外から飛来したと考えられます。C 県クリ園場の周りにどんな植物が植わっていたか残念ながらフォローしていませんが、おそらく近くにゴヨウマツの植込みがあって、そこにた

くさんマツゴマが発生していたのだらうと思われます。

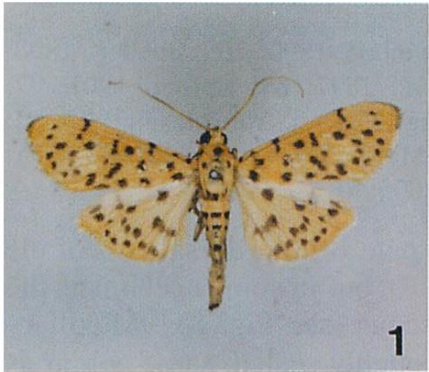

このようにモモノゴマダラノメイガ誘引剤は、トラップを仕掛けた場所によっては無視できない頭数のマツノゴマダラノメイガを集めてしまうことがあります。両種を識別するポイントをおさえておくことは、正確なデータを得るために必要だと思ひます。

両種の標本写真を下図に示しました。もともと同種として扱われていただけあって、とてもよく似ています。写真の下に、日本産蛾類大図鑑 I の解説から抜粋した斑紋の区別点を載せています。硬い表現でちょっと分かり難いので平たい言葉にしてみます。

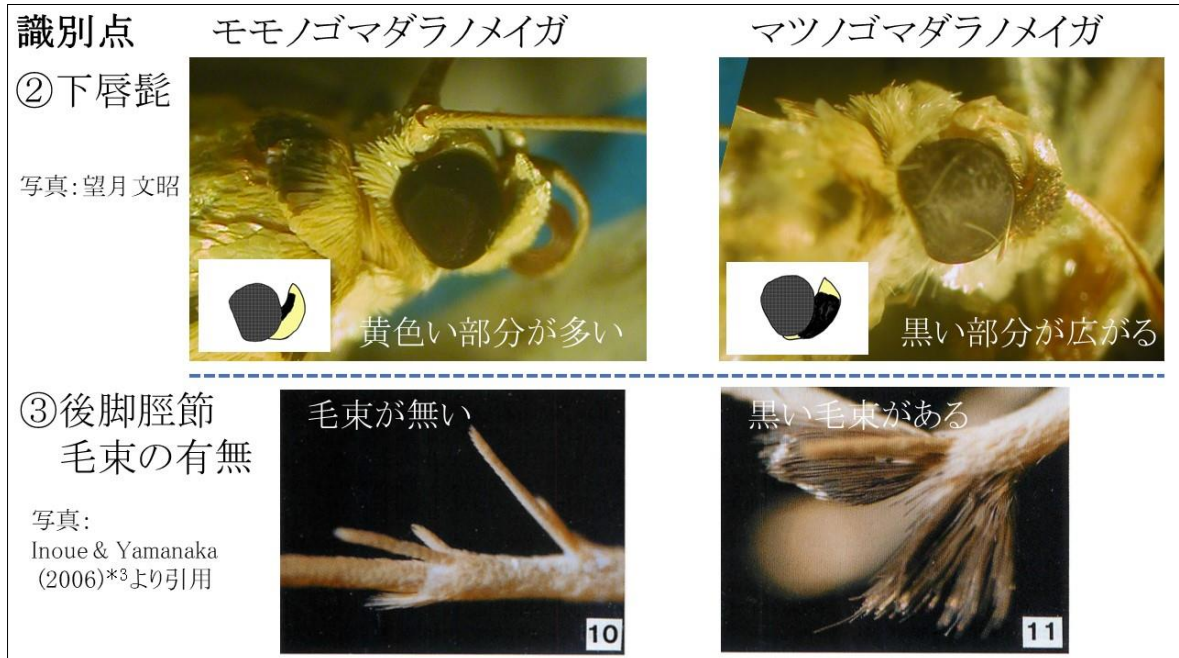
モモノゴマダラノメイガ： ヒョウ柄の黒点模様のひとつひとつが小さくてその多くが独立している

マツノゴマダラノメイガ： 黒点が比較的大きくて特に後翅の黒点が連続している

並んだ標本を見れば斑紋の違いで識別できそうですが、粘着板に張り付いた虫の翅表を見てどっちの虫か判断するのはかなり難しいと思ひます。もう少し確実な識別点が欲しいところでは。

識別点	モモノゴマダラノメイガ	マツノゴマダラノメイガ
①翅表の斑紋		
写真： Inoue & Yamanaka (2006)* ³ より引用		
説明： 井上(1982)日本産 蛾類大図鑑 I p338	黒点は大部分が独立し、前翅外横線に当たる点列のうち前縁部の3個連続する程度	前・後翅とも黒点はモモノゴマより拡大される傾向があり、特に後翅の外横線に当たる点列は連続的になることが多い

両種を確実に見分けるためには、下図に示した「②下唇髭」と「③後脚脛節 毛束の有無」をチェックします。



最初にチェックするポイントは③です。後脚脛節に毛束が有ればマツノゴマダラノメイガと判定して支障ありません。しかし、毛束は普通に生活していても取れ易く、特に粘着面で虫が暴れるとどこかに紛失することがあるので注意が必要です。毛束が無いからと云って即断せず、もうひと手間をかけて次に②をチェックします。ピンセットなどで頭部を動かし下唇髭を横から観察するのです。上図写真はトラップ粘着面に付着した虫を撮影したものです。黄色い部分が多い下唇髭ならモモノゴマダラノメイガですが、大部分が黒かったらそれはマツノゴマダラノメイガです。

下唇髭の観察はちょっと面倒と感じるかもしれませんが、私自身、慣れると意外にスムーズに作業できました。また、1ヶ月以上も前に回収した粘着板にくっついた虫でも見分けることができたので、時間に余裕がある時まとめてチェックしても良いと思います。

*1 Hiroshi HONDA (1986) Post-Mating Reproductive Isolation between Fruit- and Pinaceae-Feeding Types of the Yellow Peach Moth, *Conogethes punctiferalis*

(GUENEE) (Lepidoptera : Pyralidae). *Applied Entomology and Zoology*. 21(3):
489-491.

* 2 <https://jppa.or.jp/onlinestore/feromonn/8pspe.pdf>

* 3 Inoue, Hiroshi and Yamanaka, Hiroshi (2006). Redescription of *Conogethes punctiferalis* (Guenée) and descriptions of two new closely allied species from Eastern Palearctic and Oriental Regions (Pyralidae, Pyraustinae). *Tinea* **19** (2):
80–91.

2022年5月7日

望月文昭